

シラバス（申請用）

区分	創傷管理関連
担当指導者	奥村 法昭、森 基、高田 大輔、宇尾 ユミコ、竹林 真澄
時間	34
学習概要	<p>「創傷管理関連」で共通して学ぶべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚、皮下組織（骨を含む）に関する局所解剖 2. 主要な基礎疾患の管理 3. 全身・局所のフィジカルアセスメント 4. 慢性創傷の種類と病態 5. 褥瘡の分類、アセスメント・評価 6. 治癒のアセスメントとモニタリング（創傷治癒過程、TIME理論等） 7. リスクアセスメント 8. 褥瘡及び創傷治癒と栄養管理 9. 褥瘡及び創傷治癒と体圧分散 10. 褥瘡及び創傷治癒と排泄管理 11. DESIGN-Rに基づいた治療指針 12. 褥瘡及び創傷の診療のアルゴリズム 13. 感染のアセスメント 14. 褥瘡の治癒のステージ別局所療法 15. 下肢創傷のアセスメント 16. 下肢創傷の病態別治療 17. 創部哆開創のアセスメントと治療 <p>特定行為「褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去」で学ぶべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の目的 2. 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の適応と禁忌 3. 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴うリスク（有害事象とその対策等） 4. DESIGN-Rに準拠した壊死組織の除去の判断 5. 全身状態の評価と除去の適性判断（タンパク量、感染リスク等） 6. 壊死組織と健常組織の境界判断 7. 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法 8. 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法 <p>特定行為「創傷に対する陰圧閉鎖療法」で学ぶべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 創傷に対する陰圧閉鎖療法の種類と目的 2. 創傷に対する陰圧閉鎖療法の適応と禁忌 3. 創傷に対する陰圧閉鎖療法に伴うリスク（有害事象とその対策等） 4. 物理的療法の原理 5. 創傷に対する陰圧閉鎖療法の方法 6. 創傷に対する陰圧閉鎖療法に伴う出血の止血方法
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①創傷管理関連の特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける ②医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる ③医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「創傷に対する陰圧閉鎖療法」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる ④手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う
研修方法/ 評価方法	<p>講義（放送授業・面接授業）：e-ラーニングの受講/確認テスト、添削指導</p> <p>講義（手技動画）（放送授業・面接授業）：手技動画の視聴/手技練習の観察評価</p> <p>OSCE（実技試験）：シミュレーターを用いた実技試験の実施/評価表（DOPS）を用いた観察評価</p> <p>実習（面接授業）：①手順書、②患者に対する実技</p> <p>①手順書案の作成、特定行為実施後の再評価/医師による評価</p> <p>②特定行為の適応・病状の範囲・行為内容の判断・実施・報告、レポート提出/評価表（DOPS）を用いた観察評価、レポートへのフィードバック</p> <p>※経験すべき症例数は、行為の難度に応じて5症例とする</p> <p>試験（筆記試験）：修了試験の実施（教室に集合しPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）</p>
備考	<p>研修時間には、講義、評価を含みます</p> <p>講義時間には、動画再生時間、動画中の課題の時間、確認テスト（テスト受講、採点、解答確認）の時間を含みます。自学の時間は含まれません</p> <p>患者に対する実技を行う実習の前にシミュレーションによる学習（手技練習）および実技試験（OSCE）を行います</p>

学習内容	テーマコード	タイトル	講義	実習	OSCE	評価	合計	学習概要
「創傷管理関連」で共通して学ぶべき事項								
講義	TK2KL011	皮膚、皮下組織（骨を含む）に関する局所解剖	0.5				11	1
	TK2KL021	創傷治癒過程と治癒遅延の原因のアセスメント・モニタリング	0.5					6
	TK2KL031	創傷治癒遅延にかかわる主要な基礎疾患の管理	1					2
	TK2KL041	褥瘡予防・管理のための全身および局所のフィジカルアセスメント	0.75					3
	TK2KL051	慢性創傷の種類と病態	0.75					4
	TK2KL061	褥瘡の分類、アセスメント・評価	0.75					5
	TK2KL071	褥瘡のリスクアセスメント	0.5					7
	TK2KL081	褥瘡および創傷治癒と栄養管理	0.75					8
	TK2KL091	褥瘡および創傷治癒と体圧分散	1					9
	TK2KL101	褥瘡および創傷治癒と排泄管理	0.5					10
	TK2KL111	DESIGN-Rに基づいた治療指針とモニタリング、ステージ別局所療法	0.75					11、14
	TK2KL121	褥瘡および創傷の診療のアルゴリズムと感染のアセスメント	0.75					12、13
	TK2KL131	下肢創傷のアセスメントと病態別治療	1.5					15、16
	TK2KL141	哆開創のアセスメントと治療	1					17
試験	TK2KT010	創傷管理関連（共通） 修了試験				1	1	
			11	0	0	1	12	

特定行為「褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去」で学ぶべき事項								
講義	TK2KL311	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の目的	1				11	1
	TK2KL321	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の適応と禁忌	1					2
	TK2KL331	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴うリスク	1					3
	TK2KL341	DESIGN-Rに準拠した壊死組織の除去の判断	1					4
	TK2KL351	全身状態の評価と除去の適性判断	1					5
	TK2KL361	壊死組織と健常組織の境界判断	0.5					6
	TK2KL371	創傷被覆材の使い方	1					2, 4, 6
	TK2KL381	創傷被覆材の保険適用と創傷被覆材の種類	1					2, 4, 6
	TK2KL391	創傷処置～外用薬を「あと一步」深く～	0.5					2, 6
	TK2KL401	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法	1					7
	TK2KL411	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法	1					8
	TK2KL421	在宅における壊死組織の除去の実際	1					7
講義 (手技動画)	TK2KP310	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法	1	*			2	7
	TK2KP320	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法	1	*				8
OSCE	TK2KO310	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去			*	*	0	1～8
実習	TK2KP330	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去（手順書の作成）		†			0	1～8
	TK2KP340	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去（患者に対する実技）		5症例		‡		1～8
	TK2KP350	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去（手順書の見直し）		†				1～8
試験	TK2KT310	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去 修了試験				1	1	
			13	0	0	1	14	

*：手技動画を視聴後、シミュレーターなどを利用して手技練習を行う
 †：患者に対する実技の前にOSCE（10～15分程度の評価を含む）を行う
 ‡：臨床経験や施設に応じて手順書案の作成、見直しを行う
 †：患者に対する実技では、1症例ごとに10～15分程度の観察評価を行う

学習内容	テーマコード	タイトル	講義	実習	OSCE	評価	合計	学習概要
特定行為「創傷に対する陰圧閉鎖療法」で学ぶべき事項								
講義	TK2KL511	創傷に対する局所陰圧閉鎖療法の種類と目的	1				6	1
	TK2KL521	創傷に対する局所陰圧閉鎖療法の適応と禁忌、リスク（有害事象とその対策）	1					2, 3
	TK2KL531	物理的療法の原理	0.75					4
	TK2KL541	創傷に対する局所陰圧閉鎖療法の方法	1					5
	TK2KL551	創傷に対する局所陰圧閉鎖療法に伴う出血と止血のメカニズム	0.75					6
	TK2KL561	創傷に対する局所陰圧閉鎖療法に伴う出血の止血の実際	0.5					6
	TK2KL571	在宅における創傷管理	1					1~6
講義 (手技動画)	TK2KP510	創傷に対する陰圧閉鎖療法の方法	1	*			1	5
実習	TK2KP520	創傷に対する陰圧閉鎖療法（手順書の作成）		†			0	1~6
	TK2KP530	創傷に対する陰圧閉鎖療法（患者に対する実技）		5症例		‡		1~6
	TK2KP540	創傷に対する陰圧閉鎖療法（手順書の見直し）		†				1~6
試験	TK2KT510	創傷に対する陰圧閉鎖療法 修了試験				1	1	
			7	0	0	1	8	

*：手技動画を視聴後、シミュレーターなどを利用して手技練習を行う
†：臨床経験や施設に応じて手順書案の作成、見直しを行う
‡：患者に対する実技では、1症例ごとに10～15分程度の観察評価を行う